

舞小「読書いっぱい」活動

福岡県 古賀市立舞の里小学校

基本データ

所在地	古賀市舞の里四丁目 21-1
児童生徒数	315人
教職員数	32人
蔵書数	約 15,300冊
年間貸出冊数	約 35,000冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導

【活動のねらい】

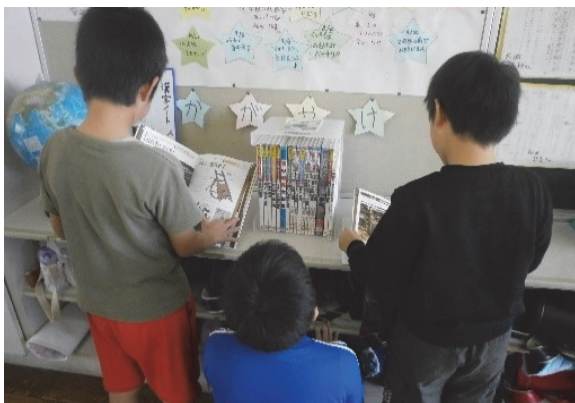
- 目的に応じて、学校図書室を学習や読書のために積極的に活用し、必要な情報を収集しながら自分の考えを深めたり広げたりするとともに、読書を楽しもうとする子どもを育てる。

取組・活動の概要

- 校長が令和元年度の重点目標の一つ「読書いっぱい」活動を職員へ周知し、始業式や終業式、全校朝の会等で全校児童に伝えている。
- 児童は、読書活動に関する目標を設定し、意欲的に読書活動に取り組んでいる。令和元年度は、長いお話の本を100冊借りて読むことを全校の目標にしている。

【資料センターとしての図書館づくり】

- 各学年の教科の学習内容に関連した図書資料の準備と充実を図り、各学級へ配置する



社会科の時間での活用

【週時程の朝活動に読書活動の位置付け】

- 毎週木曜日に読書タイムを実施し、読み聞かせの会の方や教師による読み聞かせなど実施する。

【校内読書の位置付け】

- 4月23日「子ども読書の日」、6月「かたつむり月間」、10～11月「校内読書月間」、2月「ゆきだるま月間」

【地域と連携した取組】

- 「こが語りの会」によるお話会を教育課程に位置付け、年2回実施している。
- 「舞小ぐるんぱ読み聞かせの会」による読み聞かせを朝の活動で月2回程度実施している。
- 星の子文庫による文庫活動（アンビシャス広場と連携）を地域の公民館で実施している。
- 本校では、外国関係の児童が数多く在籍していることから、外国関係の保護者の方からの英語の読み聞かせを実施している。
- 古賀市立図書館と連携し、本や資料を市立図書館から借りることで学校図書の充実を図るようにしている。
- 校区内の地域の方や保護者に学校図書室を開放しており、利用されている姿が見られる。



英語での読み聞かせ

取組・活動の工夫や特徴

- 学校の重点目標が教師と児童の合い言葉となり共有化を図るために、キーワードとして短い言葉「読書いっぱい」として表した。そして、始業式や終業式、全校朝の会等で校長や司書教諭、図書司書が何度も話題にするよう取り組んだ。また、図書委員会で100冊達成に向けた掲示物を工夫し、児童の読書意欲を高めるようにしている。

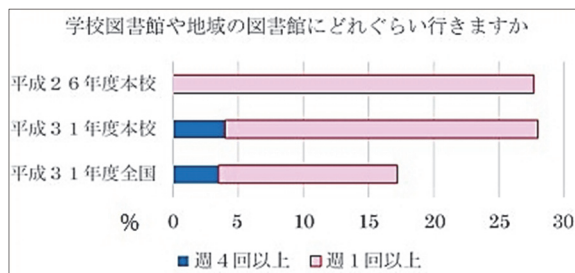


100冊達成に向けた掲示

- 年度始めに全学級で図書室利用オリエンテーションを図書司書が担任とのチームティーチングで図書室の利用方法や本の紹介をすることが一人一人の目標への意欲付けにつながっている。
- 主幹教諭と司書教諭、図書司書とが連携し、週時程や読書月間に読書活動を位置付け、読み聞かせボランティアの方とのコミュニケーションを図っている。
- 図書委員会の日常的な活動や読書月間での「お薦めの本の紹介」、「児童が児童への読み聞かせ」活動などを司書教諭、図書司書が支援している。

取組・活動の成果や今後の展望

- 一人あたりの貸出冊数が毎年、平均100冊をこえている。
- 令和元年度は、長い話の本を借りて読み通すことを目標としていたので、冊数の伸びはみられないものの、絵本類が減少し、物語を借りて読む児童数が増えた。



資料 全国学習調査児童質問紙結果一部取出し（平成26年、31年）

- 資料は、全国学力学習状況調査児童質問紙の設問「昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり借りたりするために学校図書館（室）や地域の図書館にどれくらい行きますか」に回答した割合である。本校児童の週1回以上行く割合は5年前とそれほど変わらないものの、週4回以上行く割合が増えている。本校を全国と比較すると週1回以上行く割合が10ポイント上回っている。
- 「読書いっぱい」活動をとおして、子どもたちが読書について意識を高め、本に親しむ機会が増えた。それにもなって想像力を豊かにし、学力向上へもつながっている。
- 今後は、冊数の目標と同時に選書の幅を広げ、最後のページまで読み切るなど読書の質を向上させたい。
- 英語での読み聞かせなど本校の校区の特色を活かした工夫を広げていきたい。